

## モロヘイヤ (露地)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作 型				○	~~~~~	◎	////////////////////					
主な作業				播 種	定 植 準 備	定 摘 植 芯	収 穫 開 始	追 肥	追 肥	追 肥	追 肥	

モロヘイヤ シナノキ科、原産地：中近東からアフリカ北部

作物名 モロヘイヤ

学 名 Corchotus olitorius.

作 型 露 地

### ————— 技 術 体 系 —————

#### 性 状

エジプト原産のシナノキ科に属する一年生草で、エジプトを中心に中近東、北アフリカ等で多く栽培されている。日本では、昭和 54 年頃から導入された。栄養価が高く、カルシウム、ビタミンA、E、カリウムが豊富に含まれ、新しい健康野菜として注目されている。葉をきざむとオクラのような粘りがでるが青臭さは極少なく、暑さに強く夏場の栄養野菜となっている。

#### 1 作型の特徴

4～11月まで露地栽培ができ、その前後も保温、加温により周年栽培ができる。しかし、日長が13時間以下の短日条件で開花し、収量や品質が低下する。このため4月以前や9月以降では温度管理だけでなく、電照により日長時間を15時間以上確保することも必要である。

#### 2 適応地域

全域

#### 3 栽培条件

#### (1) 気象条件

高温性の作物で、生育適温は 25℃～35℃で 15℃以下や 40℃以上になると生育が悪くなる。発芽には 25℃～30℃前後が適する。

#### (2) 土壌条件

排水のよい耕土の深い肥沃な土壌が最も適している。土壌の酸度は pH6.0～7.0 が適当とされる。

#### 4 施設装備

##### (1) 施設栽培をする場合

- ・連棟ハウスまたは単棟ハウス
- ・暖房機
- ・電照施設
- ・灌水施設

#### 5 経営目標

- |            |                 |
|------------|-----------------|
| (1) 収量     | 2 t / 10 a      |
| (2) 投下労働時間 | 1,200 時間 / 10 a |
| (3) 所得率    | 55 %            |
| (4) 経営規模   | 10 a 程度         |
- (家族労働力2人の場合)

### ————— 栽 培 技 術 —————

#### 1 育 苗

高温性の作物で発芽適温は 25～30℃で 3～6日 で発芽する。セルトレイにコート種子を 1～2粒ずつ播種し、発芽後、間引いて1本にする。育苗用土は他の野菜と同じものでよい。

## 2 定植

定植 20 日前までに堆肥等の有機物を 2 t / 10 a 程度施用し 1 週間前に基肥を施用する。畦幅 150cm、株間 40 ~ 50cm 2 条植、栽培密度は 2,500 ~ 3,200 株 / 10 a を標準とし、マルチ等を雑草抑制と土壌水分保持を兼ねてする。

施肥量 (kg / 10 a)

	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	備考
基肥	10	10	10	追肥は緩効性肥料を 1 ヶ月に 1 回 N 1 ~ 2kg / 10 a を目安とし、草勢により施肥量、時期を変える。
追肥	8	4	8	
全量	18	14	18	

地力で作る作物なので、堆肥、石灰など土壌改良資材は十分に施用する。

## 3 定植

25 ~ 30 日間の育苗で本葉 4 ~ 5 枚 (草丈 15 ~ 18 cm) 頃に定植する。

## 4 病害虫

病気はあまりみられない。害虫はハダニ、スリップス、アブラムシ、ハスモンヨトウ、ネコブセンチュウ等が発生する。登録農薬は少ないが、野菜類およびモロヘイヤに登録のある農薬を選択して定期的な予防を行う。

## 5 摘心と収穫

定植後、草丈 50 ~ 70cm 程度になれば、先端から 23 ~ 25cm を収穫を兼ねて摘心する。その後、残った葉腋から側枝が伸びてくるので、順次 23 ~ 25cm に伸びた側枝を収穫する。収穫する際に、必ず 1 ~ 2 節を残して切らないと側枝が発生してこないで注意する。

## 6 その他

柔らかい葉を収穫するためには、追肥と合わせ、

灌水を十分行うことが重要である。

### (1) 追肥

収穫後には NK 化成等の速効性肥料を窒素成分で 1 ~ 2 kg / 10a 程度施用する。

### (2) 灌水

土壌水分は多めを好むので、梅雨明け後の高温乾燥時には畝間灌水等を積極的に行う。

## 7 その他

過繁茂になった時は、適当に剪定すると通風、採光がよくなり、葉腋から再び新芽が出てくる。近年、雨よけ栽培で葉ぶくれ病 (葉の裏側に約 1mm の円形又は不整形の隆起を葉脈に沿って多数発生) が発生している。これは子のう菌類の一種が原因である。特に高温多湿条件下で発生が多いため、施設内の換気を十分に行う。

モロヘイヤは日長が 13 時間以下の短日条件で開花し、反対に 15 時間以上で開花が抑えられる。そのため、日長時間が短い 4 月以前や 9 月以降に栽培する場合は温度管理だけでなく電照施設により日長時間を 15 時間以上確保することも必要である。